

活動報告

団体名	NPO 法人 アートワークショップすんぷちよ
活動名	復旧・復興期における心のケアと新たなコミュニティ形成のためのサロン活動
活動期間	2019/11/01～2020/11/30
活動の成果	<p>1) 発災直後：福島県伊達市の避難所では、長期に渡って生活環境が整わないことが課題となっていた。12月ごろまでダンボールベットや各個人を仕切るものなどではなく、集会室の座布団を重ねて布団を敷き寝泊りしている状態だった。訪問時には水分補給の必要性や体調管理、不安ごとなどのヒアリングを行った。避難所運営の受付にヒアリング結果をつなぎ、対処して頂いたこともあった。また避難所内の掃除が行き届いていないことから、避難者が少ない時間帯に室内の清掃を行った。コンビニ弁当配布のみの食事が続いていたことから、炊き出しを行った。おしるこや芋煮など暖かいものが好まれた。その後コロナによって避難所内の立ち入りが制限され、その後も支援の継続が困難となり、避難所も閉鎖となった。宮城県大郷町では、発災直後、実地調査と避難所調査を日本インターナショナルサポートプログラムと共に行った。その後役場の保健福祉課から依頼を受ける形で仮設住宅への引っ越し支援などをサポートした。</p> <p>2) 仮設住宅入居時：主に談話室でのサロン活動運営をサポートした。在宅している高齢者1人1人に声をかけ集まっていただくように促した。夏場はエアコンの使い方がわからない住民がいたことから、熱中症対策として水分補給やエアコン操作などの声かけを行ったり塩飴の配布を行った。サロン時には他団体の体操や、手芸品の手渡しなども行われた。コロナ禍では一時活動休止となったがその後再開した。ダンサー振付家による身体をほぐすワークショップも行われた。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>仮設住宅や避難所のコミュニティ支援として、身体を動かすワークショップを取り入れたプログラムを検討していたが、コロナ禍で談話室での活動制限があり関係性を作った直後に活動継続が難しくなっていました。その間も個別訪問などで被災者の見守りを行いました。現在では仮設住宅を退去する方も出てきており残った方々がその都度気を落とされているなど、メンタルでの支援が継続して必要と感じています。当団体の活動は一旦区切りとなりますが、引き続き台風被害のあった東方地方、また長野や福島で仮設住宅生活を送られる方のために、何かができるか考え活動していきたいと思っております。ご支援ありがとうございました。</p>

(活動のようす)

